北区の部屋だより

2024年4月 第176号

刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台1-2-5　TEL03-5993-1125　令和６年４月発行

北区こぼれ話 第176回

王子稲荷で「角のり」～興行としての開帳～

以前にこの「北区こぼれ話」でも取り上げた寺社の開帳。普段は見せていない秘仏や宝物を一定期間公開することをいい、より多くの参詣客を呼び寄せて浄財を集め、それで堂社の修復をしようとする意図から江戸時代には盛んに行われました（「北区こぼれ話」第94回「宗派の垣根を越えて―江戸時代の寺社の開帳」参照）。そして、先の「こぼれ話」でも紹介していますが、こうした開帳の際には段々と見世物小屋なども建ち並ぶようになり、信仰というより興行的な色彩が強くなっていったことが指摘されています（肥留間尚『江戸の開帳』吉川弘文館、1980年）。

さて、ここに1枚の引札（広告のこと・図1）があります。見出しには「角のり」とあり、木場の筏師たちでしょうか、水に浮かべた材木上で様々な業を披露している姿が描かれています。詞書の部分を読むと「**この度、王子稲荷社ご開帳に付き、木場連中をお呼び立てに預かり、境内に於いて未熟なる業ご覧に入れ奉りたく候**」とあります。すなわち、彼らは王子稲荷社の開帳にともなって境内でパフォーマンスをするというのです。

絵の右側に注記があり「**天保十一子年、十二社池上に於いて**」と記されています。十二社とは角筈村（新宿区）の総鎮守十二社熊野神社のことで、絵が天保11年(1840) 4月2日から催されていた同所での開帳（『武江年表』）の際の様子を描いたものだということがわかります。天保11年といえば王子稲荷社でも開帳が行われているのですが、稲荷社では2月28日からと十二社よりも早いので、この引札は、天保11年以降のものであることが知られます。そして「角のり」自体が3月17日から始まることなど様々な情報を整理して考えると、これは嘉永6年（1853）2月20日から60日間にわたって実施された開帳だということがわかります。

図１『広告研究資料第３巻』（国立国会図書館デジタルコレクション）

嘉永6年の開帳は、天候に恵まれず、参詣人も少なかったといいます（『武江年表』には「**雨天の日多く詣人少し**」）。そこで再度幕府に願い出て5月22日まで会期が延長されることになるのですが、併せて何か人集めになるようなものが企画されたのかも知れません。改めて詞書を読むと「**お呼び立てに預かり**」とあって、彼らが王子稲荷社（正確には別当金輪寺）から招かれて興行していることがわかります。開帳自体が2月20日から行われていることを考えると、やはり集客のための梃入れだったと想像するところです。

現在のところ王子稲荷社と木場連中との間に直接的な関係は確認できず、やはり興行的な性格の強いイベントだったと思います。信仰から興行へとその比重が移っていったとされる寺社の開帳、そんな実態を王子稲荷社でも垣間見ることができる資料です。

でも、十二社には大きな池がありますが、王子稲荷社には材木を浮かべるほどの大きな池がないので、どのようなかたちで「角のり」を実演したのでしょうね。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区の部屋・今月の展示「北区内に領地をもっていた「御府内」の寺社」

【展示期間】3 月 30 日(土)～4 月 24 日(水)
【展示場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

北区域が属する武蔵国豊島郡は、江戸時代を通じて突出して寺社の所領が多い特異な様相を示していて、北区の村でも支配する領主が「御府内」の寺社である場合が少なくありません。そこで今回の展示では、北区に所領をもっていた「御府内」の寺社について紹介します。

古文書入門講座「古文書でみる江戸時代の北区」開催のお知らせ

北区の旧家に残された江戸時代の古文書をテキストに、くずし字の解読方法や地域の歴史について学習します。

★日 時　令和 6 年 5 月 10 日～6 月 14 日
（毎週金曜日・全 6 回） 14～16 時

★場 所　中央図書館 3 階ホール

★講 師　保垣 孝幸 地域資料専門員

★対 象　北区在住・在勤・在学で 18 歳以上

★募 集　20 名(初心者優先・抽選あり)

★申 込　**往復はがき**にて下記必要事項を記入の上、**4 月 19 日(金)(必着)** まで
・往信用裏面 ： 講座名、郵便番号、住所、氏名(よみがな必須)、年齢、電話番号
・返信用表面 ： 申込む方の住所、氏名

★宛 先　〒114-0033 北区十条台 1-2-5 北区立中央図書館・図書係
TEL:03-5993-1125 ／ FAX:03-5993-1044

地域資料専門員による「公開歴史講座」を開催しました！

黒川徳男 地域資料専門員

中央図書館内にある「北区の部屋」では、**二人の地域資料専門員**が北区の地域資料に関するさまざまな業務を行っています。「公開歴史講座」の講師もその一つで、今年度は 2 月 24 日(土)と 3 月 9 日(土)の 2 回開催しました。

2 月は**「関東大震災から 100 年―検証・北区の被災と復興―」**、日本近現代史研究家でもある**黒川地域資料専門員**が講師を務めました。昨年は関東大震災(大正 12 年(1923))からちょうど 100 年だったことからテーマに取り上げたとのこと。当時の被害について、「北区の部屋」が所蔵する被災前後の区内各地の建物の写真を比較し、当時の新聞記事や北区史などを紐解きながら、災害規模とそこから復興までの道のりを丁寧に解説しました。

3 月は**「江戸近郊地域と西ケ原の植木屋」**で、日本近世史研究家の**保垣地域資料専門員**が講師を務めました。江戸時代に西ケ原にいたとされる植木屋さんのお話です。江戸時代の植木屋と言えば、ソメイヨシノの桜で有名な染井がよく知られています。しかし、北区域にも植木屋は存在し、8 代将軍吉宗の元で飛鳥山の植樹にも携わっていた記録があることを紹介しました。また、西ケ原には浮世絵にも描かれるくらい有名な牡丹屋敷もあったそうです。その浮世絵は現存しているか不明で見ることは叶いませんが、当時の植木屋の発展ぶりがうかがえる話でした。

どちらの講座も大変興味深く、参加募集時には大勢の方からお申し込みをいただきました。アンケートの感想も大変好評なものばかりでした。

保垣孝幸 地域資料専門員